

ノ・ムヒョン政権の評価と大統領選後の課題

2007. 12. 11

立教大学 石坂浩一

1) 朝鮮半島核問題の現段階

- 11. 14 『毎日経済』中国、北支援100億ドル基金
- 11. 14～16 南北首相会談
- 11. 19～20 NYで米朝金融協議
- 11. 20～21 南北鉄道協力分科委員会
- 11. 22 統一部、第一次南北関係発展基本計画発表
- 11. 22 『朝日』夕刊 国務省高官、テロ支援国家指定解除の方針
- 11. 26 『朝鮮日報』米国外交官がピョンヤン常駐
- 11. 27 無能力化視察団訪朝→11. 29 「作業は順調」
- 11. 27～29 南北国防相会談
- 11. 29 金養健労働党統一戦線部長訪韓
ヒル次官補訪韓「中国が首席会合年内開催で努力中」「申告の素案をほぼ作成したと聞いた」「申告対象は計画・物質・施設」
*12. 1 『読売』はプルトニウム量、ウラン濃縮実態、核移転状況、12. 6 APも同じ
- 11. 28～12. 1 南北赤十字会談
- 11. 30 千英宇朝鮮半島平和交渉本部長「年内無能力化は無理」
- 12. 3 ヒル次官補訪朝
- 12. 4 ケーシー国務省副報道官、首席会合12. 6開催は無理と認める
- 12. 4～6 南北経済協力共同委員会
- 12. 5 韓国からの開城観光開始
- 12. 6 朝鮮中央通信、ブッシュ親書報道
武大偉次官、ヒル次官補と会談
韓国政府、経済・エネルギー支援作業部会11日開催を各国に打診
- 12. 7 『NYT』親書は、核完全申告で関係正常化というもの
- 12. 7 金剛山に離散家族面会所事務所完成
- 12. 9 武大偉次官、訪朝検討説
*無能力化は遅れはあるが順調
年内は無理だが技術的なもの
*核申告は米朝にくいちがい、その内容は未確認
ウラン濃縮をめぐる立場の差か？
真意探るためヒル次官補が軍部と会談説
*米朝関係の全体的方向は？
関係正常化の準備と受け取れる動き 金融協議／親書
核の完全放棄を望む米国がどのレベルで妥協するか？
クリントン政権のように時間切れを警戒、暫定時限は上半期？

2) ノ・ムヒョン政権と対米・対北政策

① ノ・ムヒョン政権の実利外交

ノ・ムヒョン政権が「左派」という偏見あるいは誤解

韓国の右翼勢力がノ・ムヒョンの流れを警戒、過剰な対立

初期の新鮮な試みが理解されず

政権が社会に対する説得の不十分さのために孤立

議会多数党という有利な条件を生かしきれず

労働運動からは新自由主義政権と糾弾される

ブッシュ政権と対等な関係をめざすとしつつ平和の方向へ誘導

包括的アプローチ

韓米FTAの妥結

南北の当事者性の確保は成功

経済を軸とした南北の「繁栄構想」

首都機能移転など経済発展から疎外された地域に従来型開発を拡大する青写真

地域主義打破が大義

さまざまな開発特別立法

全国を開発で覆い尽くす方向へ

北朝鮮との経済協力も同一線上

黄海平和協力特別地帯、漢江河口地域共同利用など～首相会談合意

全国的観光開発

②イ・ミョンバク陣営の北朝鮮問題ブレーン

ナム・ソンウク（南成旭）高麗大学教授の考え方

*核問題は過去、現在、未来の3つがある。現在は停止しており、ウラン濃縮のような未来の問題は当面脅威にならず、過去の問題の見極めが重要になる

*南北関係は同時的な相互主義ではなくても、予測可能な範囲での「先供後得」が望ましい

*ベルリンの壁崩壊の当時、コール首相は30億ドル持ってモスクワに行きタンクを送るなど説得した。朝鮮半島も周辺4者のいずれかが反対すれば統一は難しく、感情的・理想的な面と国際政治との乖離を埋める努力が必要だ

*北朝鮮の崩壊から統一へというシナリオを考える傾向があるが、そもそも不可能だ。ピョンヤンの中国大使館にはソウルの米大使館の4、5倍のネットワークを持って常時状況をチェックしている。東北地方の10万の軍事力も4、5時間でピョンヤンに介入できる。韓国がどう対処するか、次期政権は考える必要がある。

（『韓国日報』07.11.12、バク・スンソン東国大教授との対談）

*経済管理システムにおいて政治の役割が減り経済原理が拡大している

経済単位による独立採算制の実施

物質的インセンティブ拡大、経営自律性

*価格改革→所有制改革→政治改革と進む過程の価格改革の初期段階

3) ノ・ムヒョン政権の分野別評価

①過去の歴史真相究明作業の成果

2007. 11. 19 真実と和解のための過去史整理委員会、保導連盟事件関連
で初めて政府に謝罪と追悼事業を勧告

イデオロギー的対立で抑圧されてきた人びとの復権、真相究明には役割

金大中拉致事件、軍事独裁時代の人権弾圧の解明

しかし同時に右翼勢力、既得権勢力が強く抵抗

②環境政策の失敗

セマングム

中低レベル放射性廃棄物処分場建設問題

プアンでの失敗

キョンジュでの上からの政策、利益誘導

開発型でないオルタナティブな発展イメージの形成、合意できず

環境政策での失敗がムン・グクヒョン候補の登場促す

③民主化運動はなぜ民主政治につながらなかったのか

チェ・ジャンジプ（崔章集）vsペク・ナクチョン（白樂晴）論争

チェ教授～民主化運動の担い手は個別的に既成政党に吸収された

→新たな市民政党が必要

ペク教授～右翼勢力との対決、清算されない冷戦構造のなかで政府の限界はあるが

支えなければいけない

カン・ジュンマン教授

ノ・ムヒョン政権を支持しないと裏切り者であるかのような一部ネティズンの雰囲気を変える必要